

(平成25年度入学生対象)

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔工学部 第四類(建設・環境系)〕

プログラムの名称(和文)	建築プログラム
(英文)	Architecture and Building Engineering

1. プログラムの紹介と概要

日本の建築家は世界で活躍し、人類の文化創造に貢献しているが、そこには幅広い知識と深い倫理観が求められる。とりわけ広島では平和な生活環境創造のための知恵が集積されてきている。本プログラムは広島の固有性を背景に、幅広い知識と教養を学習し、かつ生活環境創造のための工学知識と技術を教育しようとするものである。今後のサステナブルな開発、また情報化社会に対応した新しい建築物を自ら探求し、創造してゆくことのできる能力を育成する。

本プログラムでは建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築材料・生産の基本的な工学知識を基盤として、建築経済、建築行政等の実務に必要な知識、また芸術的な創造能力などを含め、総合的に学習する。3年次進学後は学生の志望に応じて建築学課程、建築工学課程のいずれかを選択し所属することとなる。建築学課程は本プログラムの課程構成において中心をなし、一般に建築の分野として理解されている専門領域について、幅広く総合的に学習し、建築学のいずれの専門に対しても対応できるバランスのよい知識と能力を習得する。建築工学課程では日本が世界有数の地震国であることから、先端的な防災・耐震技術の一端に触れ、安全で地球に優しい生活環境創造のため、建築構造・防災・生産に力点を置きつつ建築を学習する。

卒業生の半数以上は、大学院博士課程前期に進学し、より高度な専門技術および研究能力を修得している。卒業後は住宅・文化施設・公共施設・商業業務施設・産業施設等のあらゆる建築物の計画・設計・設備・構造・施工等、また都市計画、インテリア計画等の関連する分野の技術者、また建築家として、大手建築企業、住宅産業、建築設計事務所、自治体等において活躍している。

なお、本プログラムは、二級建築士の受験資格と一級建築士の受験資格のうち学歴要件(他に2年以上の実務経験が必要)を取得することに必要な講義・演習科目を含む教育体系としている。

2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)

○ プログラムの開始時期: 教養課程の多くを修了した2年生前期より本プログラムを開始する。第四類には、建築学、社会基盤環境工学、輸送機器環境工学の3つのプログラムがあるが、各プログラムには受入上限数がある。各プログラムへの配属は1年終了後に、本人の希望、成績を考慮して決める。建築グループにおいて1年次に学んでおくことが望ましい科目は「空間の創造」である。

○ 既修得要件

建築は人間生活全般にかかわるものであるため、教養課程においては文系科目、理系科目を問わずできるだけ広い範囲について学んでおくことが望ましい。

3. プログラムの到達目標と成果

(1) プログラムの到達目標

(A) 建築創造を通して平和な生活環境の実現に貢献できる地球人の育成(平和な生活環境に貢献できる地球人の育成)

人類史上初の被爆という経験を有し、平和な世界を希求する広島において創立された本学の固有性を堅持しつつ、人類のさまざまな平和的営みを育む建築物や都市計画、環境構造物について総合的な理解ができ、共生的地球環境のあり方を恒に念頭に置き、理想に向かって努力する健全な精神を備え、平和で豊かな生活を創造することに貢献する地球人を育成する。

(B) 社会の発展、人類の幸福に貢献できる人材の育成 (人類の幸福に貢献できる人材育成)

高度に発展した人類社会において、国際的な相互理解、相互協調のもとに、現代の文明と文化を理解し、平和的に技術活動ができ、数理科学、自然科学および人工科学等の知識を駆使し、社会や環境に与える影響を予見しながら、資源と自然力を経済的かつ有効に活用し、人類の安全と利益および地球社会の持続的発展に貢献できる能力を有する人材を育成する。

(C) 技術者として豊かな人格と倫理観を有する人材の育成 (技術者としての倫理観の育成)

人間社会の文化と福祉への洞察力を高め、その維持と改善のために工学技術を適切に用い、かつ工学技術が地球社会の環境と人間生活に及ぼす影響を的確に把握し、適切に対応することのできる、技術者としての豊かな人格と倫理感を有する人材を育成する。

(D) 建築学の工学的な基礎知識の習得 (工学的基礎知識の習得)

工学的な基礎となる数学、自然科学、情報技術に関する基本的知識を修得し、それを建築に応用できること。

(E) 建築学の総合的、個別的な専門知識・能力を有すること(建築専門知識・能力の修得)

イ)建築・都市計画や建築歴史・意匠に関する専門知識や技術を学ぶと共に、建築デザインの理論と自ら創造する実践手法を体得し、建築設計、環境デザイン、都市計画、地域計画、住宅地計画、インテリア・デザイン等に関わる多面的な能力を有していること。

ロ)建築物の周辺環境、室内環境に関して、その物理的現象、心理的現象について実態を把握・予測するための専門知識を修得し、かつ建築空間および都市環境を制御する設備・施設を計画、設計することのできる能力を有していること。

ハ)建築構造、材料、生産の各分野に関わる専門知識を学び、それぞれの立場からの建築物の設計、生産、維持、保全等に関する知識や技術を習得すると共に、建築関連諸領域の技術者と連携してそれらを実務に応用する基礎的能力を有していること。

(F) デザイン能力の育成 (デザイン能力の育成)

専門知識を利用して、社会から求められる課題を見出し、それを創造的、保全的に解決する手段、方法を構築する能力を有すること。

(G) コミュニケーション能力の育成 (コミュニケーション能力の育成)

独自に行った学習と研究を論理的に記述し、口頭で発表し、討論することのできるコミュニケーション能力および基礎的な国際コミュニケーション能力を有すること。

(H) 永続的な自己啓発、研鑽が出来る能力の育成 (自己啓発、研鑽能力の育成)

建築学およびその関連領域において、急速に多様化する社会の要請を広い視野を持つて的確に理解し、柔軟に対応できる素養を具備すること。また、本プログラム終了後、実務に就いた際に、生涯にわたって自ら新しい工学知識を学習し、永続的な自己啓発と研鑽ができる能力を備えていること。

(I) 的確で合理的な計画の立案と遂行能力の育成(計画立案と遂行能力の育成)

与えられた建築的課題に対し、限られた手段の範囲で適切な計画を立て、合理的に実行することのできる

きる能力を備えていること。

(2) プログラムによる学習の成果 (具体的に身につく知識・技能・態度)

○知識・理解

後述の「知的能力・技能」「実践的能力・技能」「総合的能力・技能」のすべてに関する基礎的事項の知識・理解

○知的能力・技能

- 1) 平和都市広島の特徴とその歴史・平和を目指した都市計画などの取り組みを説明でき、平和な生活環境を創造することについて自分の考えを述べることができる知的能力と技能
- 2) 社会人として自分の進むべき方向をグローバルな立場で的確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけ、日本の社会や国際的に問題となっている事例について自分の意見を述べるができる知的能力と技能
- 3) 社会人として自分の進むべき方向をグローバルな立場で的確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけ、技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を知りそれらを説明し、自分の考えを述べるができる、技術者として豊かな人格と倫理観を有する人材としての知的能力と技能
- 4) 数学、物理学、情報技術の基礎的内容を説明でき、建築に応用することができる知的能力と技能

○実践的能力・技能

- 1) 芸術、歴史や哲学の理解と応用能力の習得、建築設計・計画・歴史意匠・都市計画の専門知識の習得、環境保護・廃棄物管理・サステナブルな都市・建築の構築に関する知識の習得、建築物の社会的影響や職業倫理に関する理解、資料収集・分析を通じて建築のアイデアを構想し、図面製作、模型製作を通して建築のアイデアを具体化する能力の習得及び建築物の社会的影響や職業倫理に関する理解による、建築設計・計画・歴史意匠・都市計画に関する実践的能力・技能
- 2) 日照・気候・風土・地球環境等の外部環境の違いが建築物の形態や構造に及ぼす影響に関する理解、建築環境によって大きな影響を受ける人間の特性、感覚や生理心理、生活様式などについての認識、建築環境を決定する熱、光、音、空気などの物理的要素に関する基礎理論についての理解、物理的要素の測定値と、それに対する人間の感覚量との関連についての理論の理解、建築環境、建築設備の計画・設計を行う上での建築物の主要な性能評価指標についての理解及び建築環境計画におけるパッシブ手法とアクティブ手法の違いの理解による、建築環境・設備に関する実践的能力・技術
- 3) 建築構造のしくみや形式およびその特長に関する基礎知識の習得、建築物に加わる外力と構造安全性、建築部材に生じる内力や変形およびそれら等を支配する物理法則の仕組みに関する基礎知識の習得、建築部材に生じる内力や変形を計算する基礎能力の習得、建築材料の力学的性質、物理的性質および製造技術に関する知識の習得及び建築設計における材料設計・材料選択の位置づけに関する基礎知識の習得による、建築構造・材料・生産に関する実践的能力・技術
- 4) 建築設計・計画・歴史意匠・都市計画、建築環境・設備、建築構造・材料・生産のいずれかに関わる、より発展的な内容の報告書を取りまとめることができる実践的能力・技術

○総合的能力・技能

- 1) 与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することができるようになり、研究においてはその社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができるような総合的なデザイン能力
- 2) 外国人に対して自己紹介し、意思を伝えること、工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読んだり書いたりすることができるとともに、日本語によって聴衆に対して説得力のある発表用資料を作成すること、自分の考えを発表し質疑応答すること、工学や建築に関する論文・文章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くことができる総合的なコミュニケーション能力
- 3) 新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集でき、与えられた目標に対して適切な学習計画を立て、それを実行することができるような、永続的な自己啓発、研鑽が出きる能力
- 4) 実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験するとともに、各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果をとりまとめることができる、的確で合理的な計画の立案と遂行能力

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

学位の種類：学士（工学）

必要な単位数：教養教育科目 49 単位以上、専門教育科目 75 単位以上、総単位数 124 単位以上

(2) 得られる資格等

卒業により二級建築士の受験資格が与えられる。また、実務経験を 2 年以上積むことにより、一級建築士の受験資格が与えられる。

高等学校教諭一種免許状（工業）（「職業指導」、「総合演習」および所定の「教養教育科目」を修得すれば、卒業と同時に高等学校教諭一種免許状（工業）を取得できる。）

(3) プログラムの構造

体系図を別紙 2 に示す。

(4) 卒業論文（卒業研究）

○ 位置付け

卒業論文は、学習・教育目標の

- (D) 建築学の工学的な基礎知識の習得（工学的基礎知識の習得）
- (E) 建築学の総合的、個別的な専門知識・能力を有すること（建築専門知識・能力の修得）
- (F) デザイン能力の育成（デザイン能力の育成）
- (G) コミュニケーション能力の育成（コミュニケーション能力の育成）
- (H) 永続的な自己啓発、研鑽が出来る能力の育成（自己啓発、研鑽能力の育成）
- (I) 的確で合理的な計画の立案と遂行能力の育成（計画立案と遂行能力の育成）

に到達するための主要な科目として位置付けられている。

○ 配属時期と配属方法

配属時期：4 学年開始時（ただし、「卒業研究着手条件」を満たすものを対象とする。）

卒業論文着手条件

- (1) 履修すべき教養教育科目 49 単位を修得していること。
- (2) 専門教育科目の専門基礎科目より 32 単位以上（必修科目のすべてを含む）を履修していること。

(3)建築設計製図Ⅲ,Ⅳ(建築工学課程はⅣを除く)を修得していること。

(4)卒業までに修得すべき専門基礎科目と専門科目(卒業論文5単位を除く)の合計単位数のうち未修得単位数が10単位以下であること。

○ 配属方法

配属予定の各研究室・指導教員の研究内容および配属方針(各研究室・指導教員の受け入れ可能数など)はガイダンスを行って周知する。建築設計製図の成績により卒業論文着手可能者の10%程度までは論文に替えて卒業設計とすることも可能である。配属は卒業論文着手可能者の希望にしたがって決定する。ただし、受け入れ可能数があるので、調整をする場合がある。

5. 授業科目及び授業内容

別紙3参照

6. 教育・学習

(1)教育方法・学習方法

別紙1に記した「プログラムの教育・学習方法」、並びに、別紙2に記した、上記「3.(1)プログラムの到達目標」に対応させて設定した「学習・教育目標に到達するために必要な授業科目の流れ」によって、各学習・教育目標への到達を図る。

(2)学習支援体制

○ 広島大学学生情報システム「もみじ」

学籍情報、履修情報、成績情報、シラバス、就職情報、電子掲示板等に、広島大学学生情報システム(通称、もみじ)を活用する。

○ チューター制度

工学部第四類の入学生には1年次終了時まで約40人に二人のチューター(指導教員)がつき、学習や生活面での相談・指導に当たる。2年次前期に各プログラムに配属された後はプログラム毎に二人のチューターがつく。チューターは主に下記の指導等を行う。

- ・オリエンテーション:修学についてのガイダンス
- ・修学指導:履修計画の指導・助言と学習方法の相談に対する指導・助言
- ・奨学援助:育英団体への申請に関する面談と所見の記述、奨学生への指導・助言
- ・その他:生活面の相談、悩みに関する相談へのアドバイス

工学部では、チューターが半年毎に成績をチェックした上で学生と面談し、面談を済ませた学生のみが「もみじ」で成績表を閲覧できるようにしている。面談に来ない学生に対してはチューターが連絡を取ると共に、成績不良の学生(半期の取得単位数が極端に少ない学生)には学生生活状況を家族に報告することとしている。

また、本プログラムでは、1年次前期の必修科目である「教養ゼミ」の担当教員も、チューターと同様に学生の様々な相談に応じている。

○ 履修ガイダンス

入学時には新入生オリエンテーションとして「教養教育ガイダンス」、「専門教育ガイダンス」等があり、学生生活や履修方法等について詳細な説明がなされる。1年次終了時には「プログラム分けガイダンス」があり、プログラム分けの方法と各プログラムの内容が説明される。2年次終了時には「課程分けガイダンス」があり、建築学課程、建築工学課程のいずれかへの配属が決定される。また、3年次後期には「研究室配属ガイダンス」および「就職ガイダンス」があり、卒論着手の判定方法、研究室配属の方法、就職活動などについて説明する。

○ 授業ガイダンス

各授業科目の位置づけを明確にするために、多くの教員がシラバスの内容（目標、内容、成績評価方法、カリキュラム中での位置付け、オフィスアワー等）を中心としたガイダンスを各授業の最初に実施している。

○ オフィスアワー制度

オフィスアワー制度は、教員が特定の曜日・時間を決めてなるべく研究室に在室し、学生はその時間には自由に教員研究室を訪れて授業内容あるいは修学上の問題について質問・相談等を行うことができるという制度であり、多くの授業科目で実施されている。但し、オフィスアワーを実施しているかどうかにかかわらず、どの科目でも自由に質問・相談に訪れて構わない。

○ ティーチングアシスタント制度

本プログラムでは毎年多くの TA（ティーチングアシスタント）予算を申請し、実際に獲得している。TA は主に大学院博士課程前期の学生であり、講義におけるレポートの添削、演習における解答指導、実験・実習における指導などを行っている。これによって少人数教育やきめ細かな指導が可能となっている。

○ 学生による授業評価

学生による授業評価は、全学で毎年行われている。これらのアンケートには自由記述欄があり、アンケートの結果を検討することによって学生の要望を考慮した授業改善を行っている。

7. 評価（試験・成績評価）

（1）到達度チェックの仕組み

○ 授業科目ごとの成績評価および総合的評価

- 1) 授業科目ごとの成績は、シラバスに記載の成績評価方法および基準に従って、秀、優、良、可、不可、あるいは100点満点で評価される。さらに、これらから所定の計算法により GP を計算する。
- 2) 総合的評価としては、GP の総和による評価として所定の計算法により計算される SGP による評価、および GP の平均値による評価として所定の計算法により計算される GPA による評価が行われる。これらの評価は、成績優秀者の表彰などに利用される。

○ 学習・教育目標到達度の評価

- 1) 講義科目には関連する学習・教育目標として(A)～(I)が示されており、これらの科目を履修することにより講義で設定した目標に到達することが出来る。
- 2) 3年次終了時の単位取得状況により、卒業時に学習・教育目標を総合的に到達し得る可能性があるかと判断された学生は4年次へ進級（卒業論文を着手）することが出来る。
- 3) 4年次では卒業要件単位の取得状況、卒業論文における学習・教育目標到達度の直接的評価により本プログラムでの総合的な到達度を評価する。

（2）成績が示す意味

目標到達度の評価基準を別紙4に示す。

8. プログラムの責任体制と評価

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

本プログラムでは、担当教員から成る建築プログラム会議とその下部組織である2つの委員会（建築グループ学習・教育評価検討委員会、建築グループ自己点検委員会）を組織し、プログラムの点検・改善に取り組んでいる。学習・教育評価検討委員会にはカリキュラム検討WG、FD企画検討WG、外部評価検討WGが設置されている。これらの委員会はそれぞれの担当分野で教育プログラムが円滑に進むように、学習・教育目標とその到達度評価法や教育システム全般(教育手段,教育環境など)を点検・評価し(Check),教育改善方法を検討し(Action),学習・教育目標,教育方法,教育環境の改善などの改善計画を作成し(Plan),実行する(Do)というようにPDCAの改善のループを構築している。このプログラムは、プログラム主任を中心に担当教員全員が協力して進めていく体制になっている。

(2) プログラムの評価

○ プログラム評価の観点

本プログラムでは、以下の評価基準に従い、プログラムの評価を行っている。

- ・学習・教育目標到達度の評価結果に基づいて、プログラムを点検できる教育点検システムが存在し、その仕組みが開示されているか。さらに、それに関する活動が実施されているか。
- ・教育点検システムは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、教育点検システム自体の機能も点検できるように構成されているか。
- ・教育点検システムを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できるようになっているか。
- ・教育点検の結果に基づいて、プログラムを継続的に改善するシステムがあり、それに関する活動が実施されているか。

○ プログラム評価の実施方法（授業評価との関連も記載）

建築プログラム会議と各委員会が中心となり、プログラムの評価・改善を行っている。ここで最も重要なことは、以下の2点である。

- ・プログラムの評価・改善が日常的にかつ計画に進められるようになっている。
- ・学習・教育目標、およびその到達度の評価方法・評価基準等の改訂と改善活動を継続的に行っている。学習・教育評価検討委員会では、プログラム評価の一つとして以下の独自のアンケートを実施している。
- ・学習環境に関する学生アンケート
- ・講義の実施状況、講義の改善計画、他の講義に対する意見などに関する教員アンケート
- ・学習・教育目標及び到達度評価の妥当性を確認するためのアンケート（卒業生および企業アンケート）

建築プログラム会議では、各委員会に対しプログラムに関する点検とその改善策の提示、FD企画案の作成などを依頼する。建築プログラム会議ではこのようにして依頼した各委員会からの報告および提案を審議し決定する。同会議はプログラム担当教員全員で構成されるので、ここで決まった評価・改善案などは全構成員に周知されたこととなり実行に移される。特に、カリキュラム関連については、学習・教育評価検討委員会のカリキュラム検討WGが自発的に点検を行い、必要な改善策の提案などを行っている。本プログラムの社会から見た妥当性については、自己点検委員会による点検・学外有識者による評価及び求人企業や卒業生に対するアンケート調査などにより点検を行っている。これらの活動は、継続的に行われている。

○ 学生へのフィードバックの考え方とその方法

本プログラムでは、チューターが常に学生の単位取得状況を把握し、学期の初めには学生との面談によ

り、学習・教育目標に到達できるように学習指導を行うと共に、学生からの質問や相談に応じている。また、チューターを通して学生からの要望を聞きそれを本プログラムの改善に反映させている。また、学生による授業評価アンケート結果に基づき科目担当教員に授業の改善・工夫などの改善アンケートを実施しており、学生の要望に対応した授業の改善を行っている。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解

身につく知識・技能・態度等
「知的能力・技能」「実践的能力・技能」「総合的能力・技能」のすべてに関する基礎的事項の知識・理解

教育・学習の方法
後述の物理，応用数学，コンピュータ工学並びに建築計画Ⅰ，建築環境学，建築構造学，建築設計製図等専門基礎科目，専門科目の講義，演習，卒業論文などを通じて，建築学に必要な広範な知識・理解を得ることができる。

○ 知的能力・技能

身につく知識・技能・態度等	教育・学習の方法
<p>1) 平和都市広島の特徴とその歴史・平和を目指した都市計画などの取り組みを説明でき、平和な生活環境を創造することについて自分の考えを述べることができる知的能力と技能</p> <p>2) 自分の進むべき方向をグローバルな立場での確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけ、日本の社会や国際的に問題となっている事例について自分の意見を述べるができる知的能力と技能</p> <p>3) 自分の進むべき方向をグローバルな立場での確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけ、さらに、技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を知りそれらを説明し、自分の考えを述べるができる、技術者として豊かな人格と倫理観を有する人材としての知的能力と技能</p> <p>4) 数学、物理学、情報技術の基礎的内容を説明でき、建築に応用することができる知的能力と技能</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 「平和都市・建築論」において、広島の平和都市の建設の経緯、目標、意義などについて学ぶ。・ 「建築設計製図Ⅰ」の演習において、平和記念施設の設計図面コピー課題、透視図表現課題を通して、その建築的な特徴を理解する。・ 「建築設計製図Ⅲ、Ⅳ」の演習において、広島市内の平和記念施設、被爆建造物等に関連する設計課題に取り組む中で、広島の平和志向の都市計画について理解する。・ 「建築設計製図Ⅲ、Ⅳ」の演習の各課題を通して、平和な生活環境の創造について考える。・ 「教養的教育総合科目」、「パッケージ別科目」より日本や国際社会で問題となっていることについて学ぶ。「建築設計製図Ⅱ、Ⅲ」では、設計課題に取り組む中で、その背景となっている現代社会における問題を考える。・ 「建築倫理」において講義、文献調査、討論、レポートなどを通して学ぶ。・ 「教養的教育総合科目」、「パッケージ別科目」、「応用数学Ⅰ」において数学、物理学、情報技術の基礎的内容と建築への応用を学ぶ。

○ 実践的能力・技能

身につく知識・技能・態度等
<p>1) 芸術，歴史や哲学の理解と応用能力の習得，建築設計・計画・歴史意匠・都市計画の専門知識の習得，環境保護・廃棄物管理・サステイナブルな都市・建築の構築に関する知識の習得，建築物の社会的影響や職業倫理に関する理解，資料収集・分析を通じて建築のアイデアを構想し，図面製作，模型製作を通して建築のアイデアを具体化する能力の習得及び建築物の社会的影響や職業倫理に関する理解による，建築設計・計画・歴史意匠・都市計画に関する実践的能力・技能</p> <p>2) 日照・気候・風土・地球環境等の外部環境の違いが建築物の形態や構造に及ぼす影響に関する理解，建築環境によって大きな影響を受ける人間の特性，感覚や生理心理，生活様式などについての認識，建築環境を決定する熱，光，音，空気などの物理的要素に関する基礎理論についての理解，物理的要素の測定値と，それに対する人間の感覚量との関連についての理論の理解，建築環境，建築設備の計画・設計を行う上での建築物の主要な性能評価指標についての理解及び建築環境計画におけるパッシブ手法とアクティブ手法の違いの理解による，建築環境・設備に関する実践的能力・技術</p> <p>3) 建築構造のしくみや形式およびその特長に関する基礎知識の習得，建築物に加わる外力と構造安全性，建築部材に生じる内力や変形およびそれ等を支配する物理法則の仕組みに関する基礎知識の習得，建築部材に生じる内力や変形を計算する基礎能力の習得，建築材料の力学的性質，物理的性質および製造技術に関する知識の習得及び建築設計における材料設計・材料選択の位置づけに関する基礎知識の習得による，建築構造・材料・生産に関する実践的能力・技術</p> <p>4) 建築設計・計画・歴史意匠・都市計画，建築環境・設備，建築構造・材料・生産のいずれかに関わる，より発展的な内容の報告書を取りまとめることが出来る実践的能力・技術</p>

教育・学習の方法
<p>イ) 建築設計・計画・歴史意匠・都市計画に関する実践的能力・技能は，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「建築設計製図Ⅰ」「建築設計製図Ⅱ」の模型製作や課題の製作 ・ 「建築設計製図Ⅲ」「建築設計製図Ⅳ」における企画や課題の立案，制作 ・ 「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅱ」 ・ 「建築行政」 ・ 「建築意匠」「日本建築史」「西洋建築史」 ・ 「都市計画」 <p>などにおいて学ぶことが出来る。</p> <p>ロ) 建築環境・設備に関する実践的能力・技術は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「建築環境学Ⅰ」「建築環境学Ⅱ」 ・ 「建築環境学演習」 ・ 「建築設計製図Ⅲ」，「建築設計製図Ⅳ」 ・ 「建築設備Ⅰ」 <p>などを通して学ぶことが出来る。</p> <p>ハ) 建築構造・材料・生産に関する実践的能力・技術は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「建築一般構造」「建築設計製図Ⅲ」，「建築設計製図Ⅳ」「建築構造設計」 ・ 「建築構造力学Ⅰ，Ⅱ」 ・ 「建築見学演習」 ・ 「建築材料」 ・ 「建築学外実習」 ・ 「建築施工」 ・ 「建築生産マネジメント」 <p>などを通して学ぶことができる</p> <p>ニ) より発展的な内容の報告書を取りまとめることが出来る実践的能力・技術は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イ)～ハ)に関わる授業科目の他に，建築学課程，建築工学課程の多様な授業科目から自らの関心に従って選択的に学習し，幅広い，発展的な知識・能力を修得し建築技術者としての土台を作ることができる。 ・ 「卒業論文」において，イ) ロ) ハ) のなかから学生が興味を持った領域に関わるテーマを選び，やや発展的な内容の研究的学習を行い，それをまとめて報告書（または設計図書）を製作することにより修得することができる。

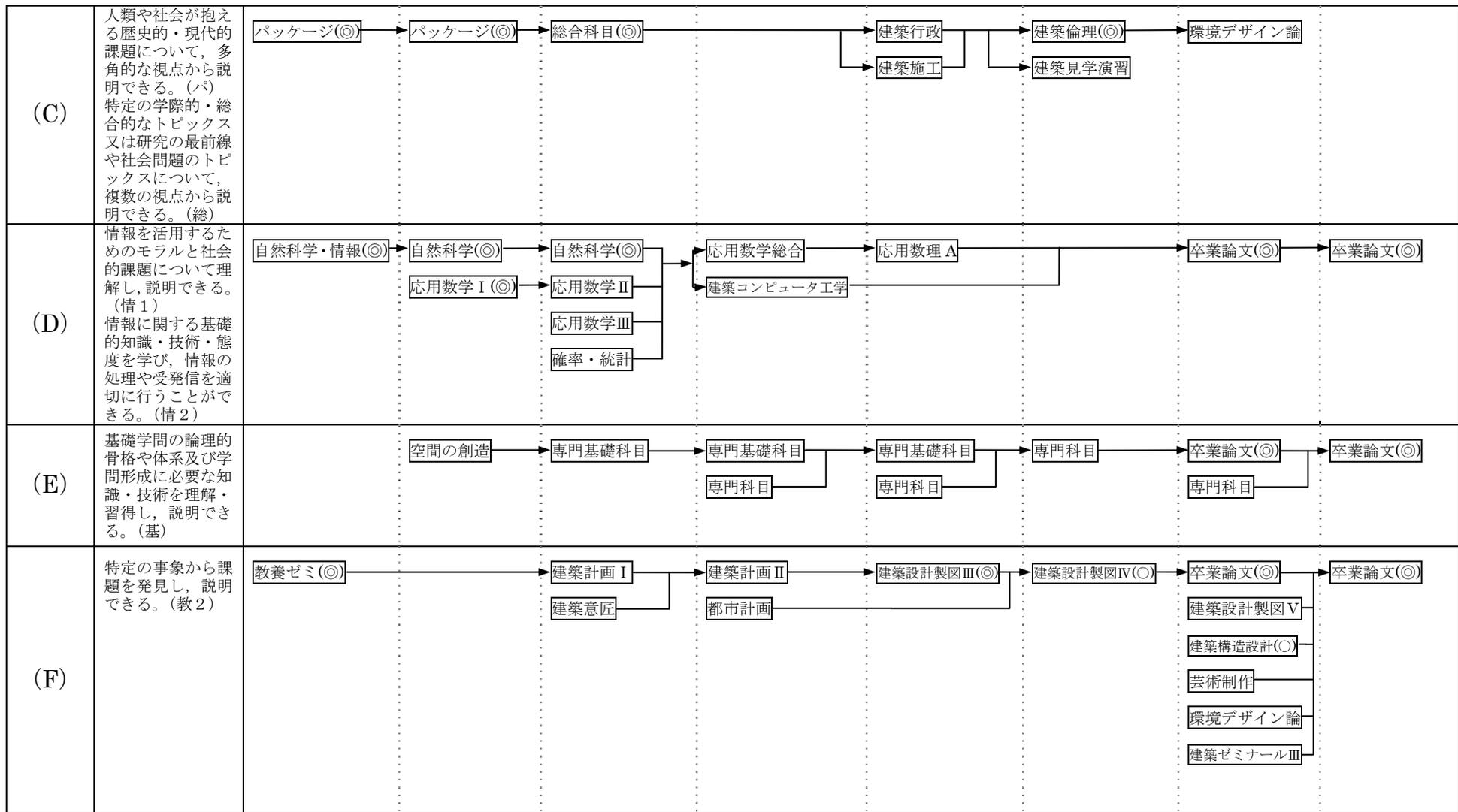
○ 総合的能力・技能

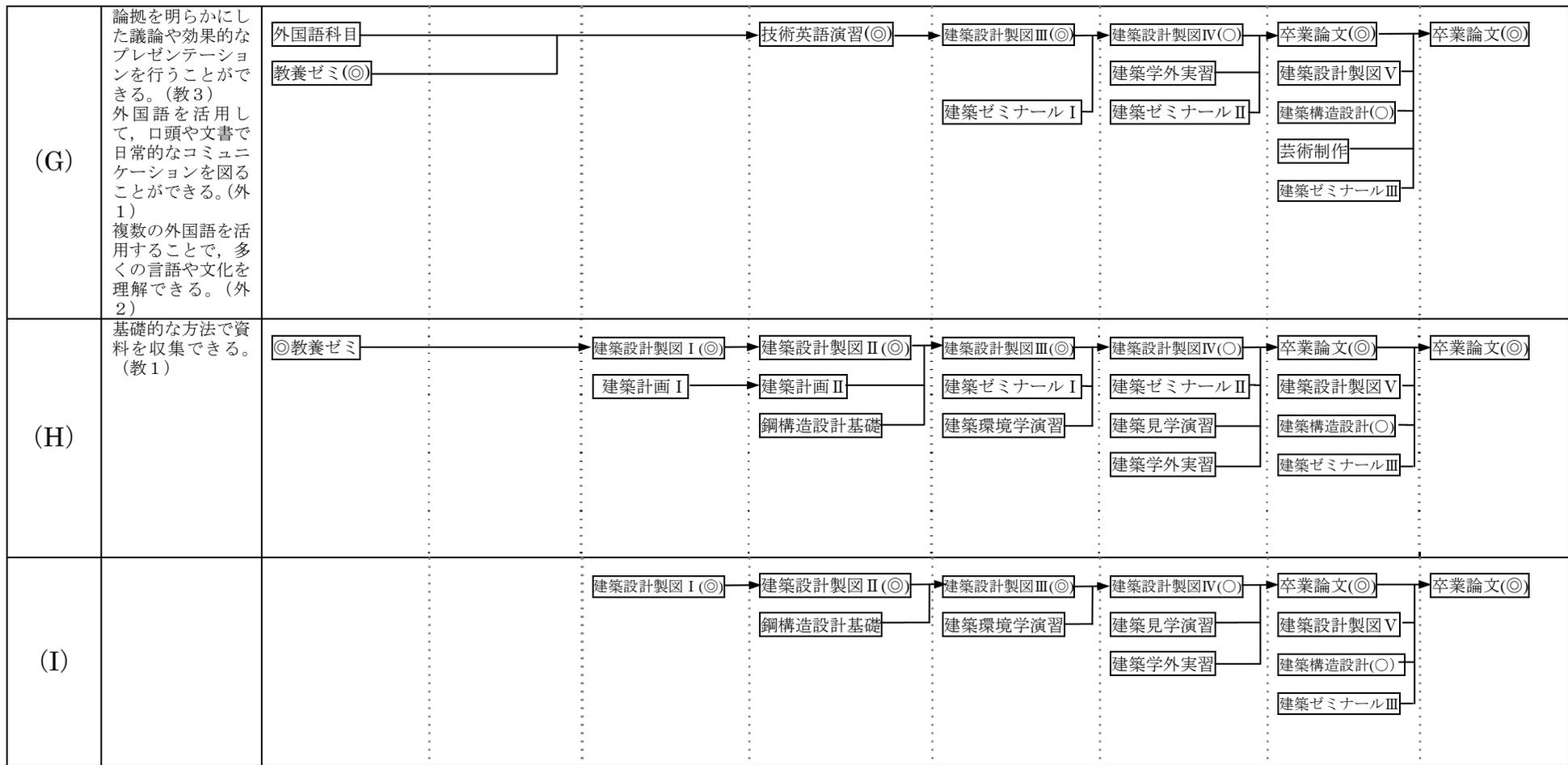
身につく知識・技能・態度等
<p>1) 与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することができるようになり、研究においてその社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができるような総合的なデザイン能力</p> <p>2) 外国人に対して自己紹介し、意思を伝えること、工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読んだり書いたりすることができるとともに、日本語によって聴衆に対して説得力のある発表用資料（配布資料、PPT）を作成すること、自分の考えを発表し質疑応答すること、工学や建築に関する論文・文章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くことができる総合的なコミュニケーション能力</p> <p>3) 新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集でき、与えられた目標に対して適切な学習計画を立て、それを実行することができるような、永続的な自己啓発、研鑽が出来る能力</p> <p>4) 実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験するとともに、各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果をとりまとめることができる、的確で合理的な計画の立案と遂行能力</p>

教育・学習の方法
<p>イ) 総合的なデザイン能力は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「教養ゼミ」, 「建築設計製図Ⅲ, Ⅳ」, 「建築構造設計」「都市計画」「建築計画Ⅰ, Ⅱ」では与えられたテーマについて色々な視点から問題点を指摘したりその解決方法を考えることにより ・ 「卒業論文」を通して、研究の位置付けを考え、それを踏まえて研究構想を立てることにより学ぶことができる. <p>ロ) 総合的なコミュニケーション能力については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「コミュニケーションⅠA, ⅡB」により簡単な英語会話能力およびより高度なヒアリング能力を ・ 「コミュニケーションⅠB, ⅡA」により基礎的な英語の読み書き能力を ・ 「コミュニケーションⅢ」では選択によりより高度な英語会話能力を育成することを ・ 「技術英語演習」では工学的な技術英語の読み書きを中心とした能力を身につけることを ・ 「教養ゼミ」「建築設計製図Ⅲ, Ⅳ」「卒業論文」では聴衆の前で発表し質疑応答をすることを ・ 「卒業論文」では発表内容を発表資料および配布物にまとめることを ・ 「建築設計製図Ⅲ, Ⅳ」, 「建築構造設計」では設計図書などの成果物やそのプレゼンテーションを的確に行うことを <p>それぞれ学ぶことができる.</p> <p>ハ) 永続的な自己啓発、研鑽能力は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「教養ゼミ」では図書館の有効な利用法、インターネットの利用法、テーマに関わる文献や情報の収集について ・ 「建築設計製図Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ」, 「建築構造設計」, 「建築環境学演習」, 「鋼構造設計基礎」では与えられた課題に関して現れた新しい内容に関して自発的に調べたりすることを ・ 「卒業論文」においても研究テーマに関する文献の収集や、新しい技術に関して調査することなどを学ぶことができる. <p>二) 的確で合理的な計画立案と遂行能力は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「建築設計製図Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ」, 「建築構造設計」, 「建築環境学演習」, 「鋼構造設計基礎」で与えられた課題に関してレポートや図面を期限内に提出することにより ・ 「卒業論文」の一年間にわたる遂行、報告書の作成や論文の期限内の提出により ・ 「卒業論文」での学生間の協力の仕方などにより学ぶことができる.

別紙2 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	教養教育到達目標	授 業 科 目 名							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	<p>多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べることができる。(平1)</p> <p>理念と現実の葛藤を含め、平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し、説明できる。(平2)</p> <p>人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。(バ)</p> <p>特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。(総)</p>	<p>パッケージ(◎)</p> <p>平和科目(◎)</p>	<p>パッケージ(◎)</p>	<p>総合科目(◎)</p> <p>建築設計製図Ⅰ(◎)</p>	<p>建築設計製図Ⅱ(◎)</p>	<p>建築設計製図Ⅲ(◎)</p>	<p>近代建築史</p> <p>建築設計製図Ⅳ</p> <p>平和・都市建築論</p>		
(B)	<p>人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。(バ)</p> <p>特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。(総)</p> <p>スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。(健2)</p>	<p>パッケージ(◎)</p> <p>健康スポーツ(◎)</p>	<p>パッケージ(◎)</p>	<p>総合科目(◎)</p> <p>建築計画Ⅰ</p>	<p>建築設計製図Ⅱ(◎)</p> <p>日本建築史</p> <p>都市計画</p> <p>建築計画Ⅱ</p> <p>環境論</p>	<p>建築設計製図Ⅲ(◎)</p> <p>西洋建築史</p>	<p>建築設計製図Ⅳ</p> <p>近代建築史</p> <p>平和・都市建築論</p>	<p>環境デザイン論</p>	



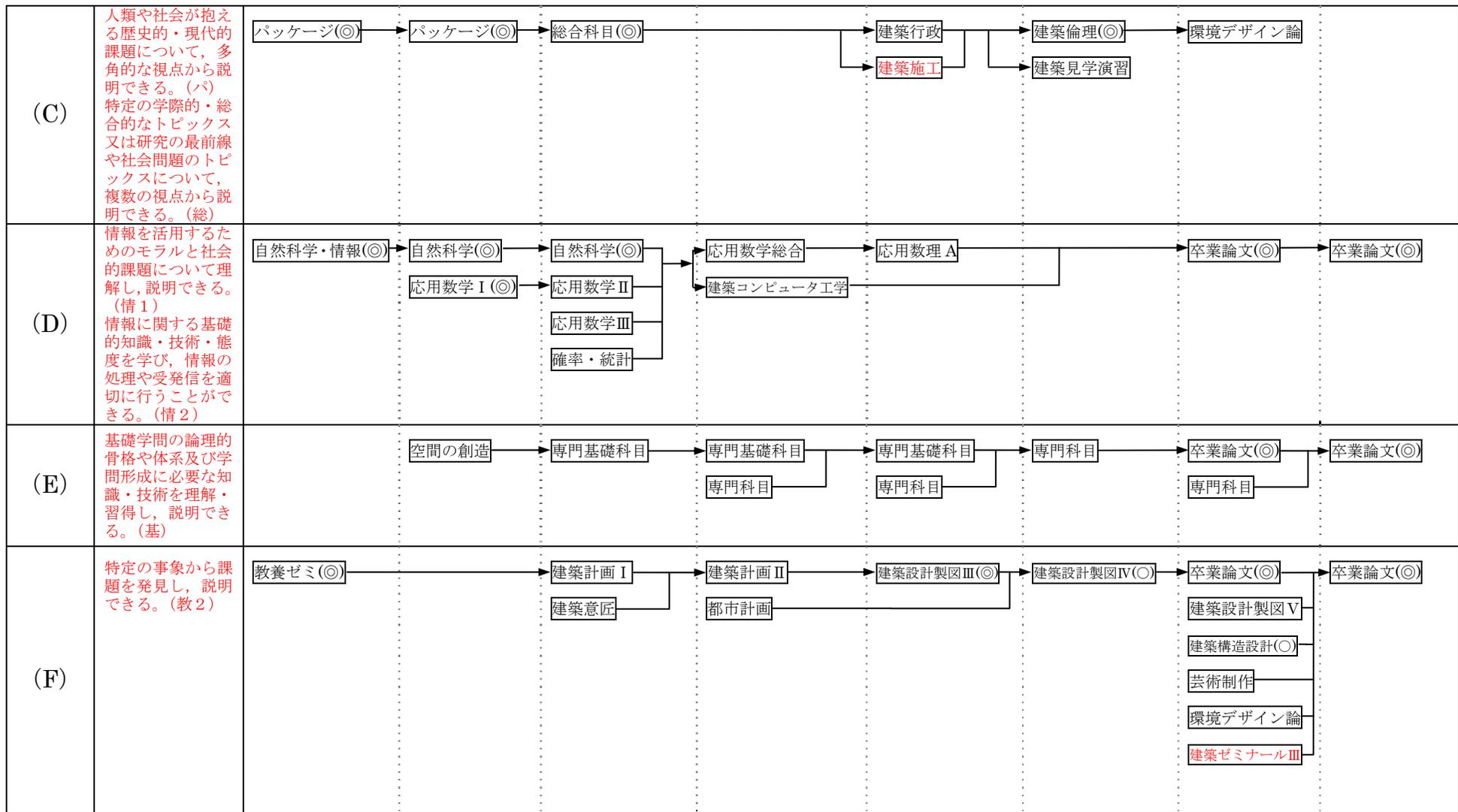


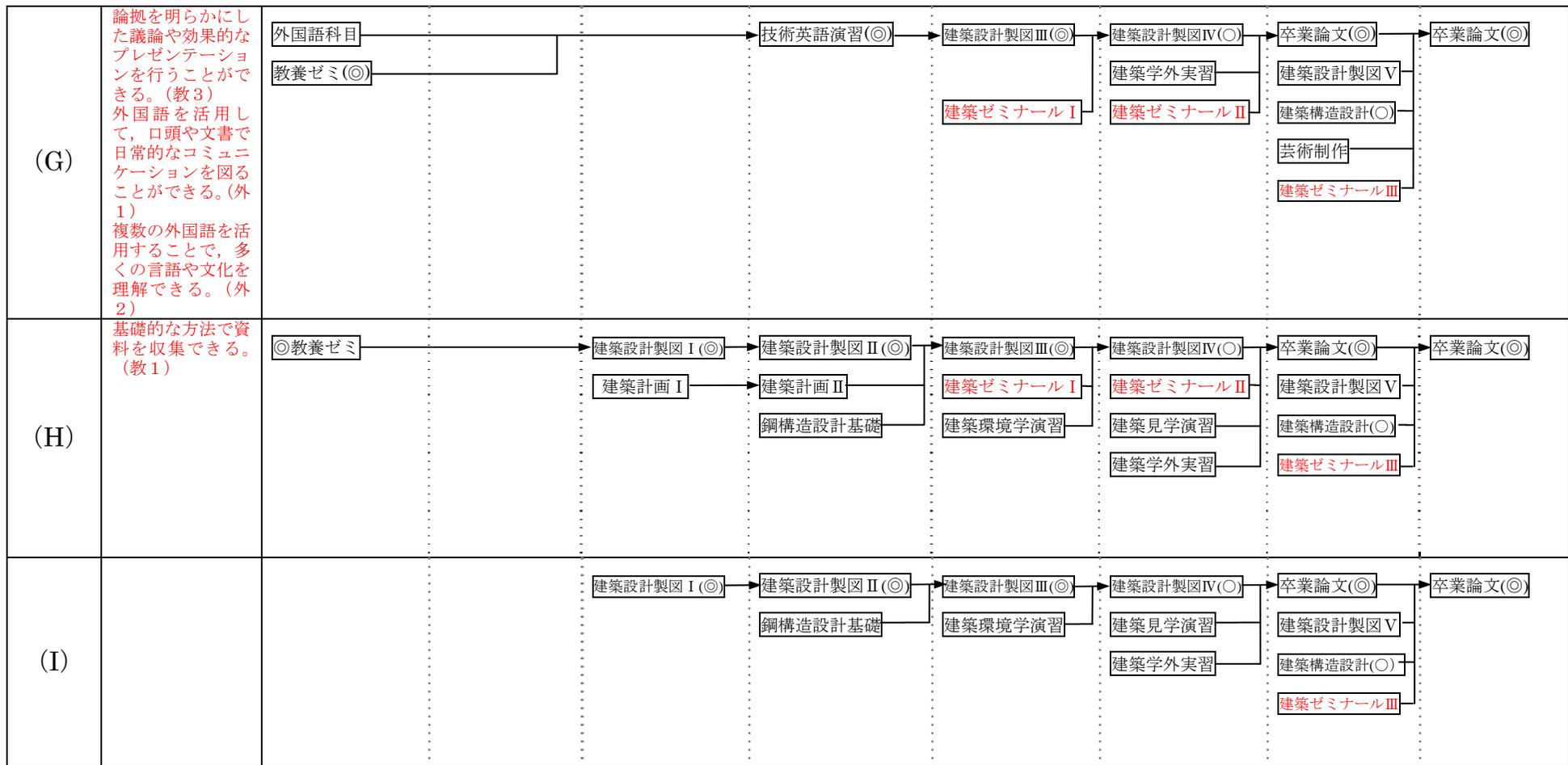
◎：各課程に共通した必修科目、○：各課程ごとに必修の指定が異なりいずれかを必ず履修すべきである科目

*：(E) 専門基礎科目、専門科目については別紙に詳細を記載している。

別紙2 学習・教育目標に到達するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	教養教育到達目標	授 業 科 目 名							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	<p>多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べることができる。(平1) 理念と現実の葛藤を含め、平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し、説明できる。(平2) 人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。(バ)</p> <p>特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。(総)</p>	<p>パッケージ(◎) → 平和科目(◎)</p>	<p>パッケージ(◎)</p>	<p>総合科目(◎) 建築設計製図Ⅰ(◎)</p>	<p>建築設計製図Ⅲ(◎)</p>	<p>近代建築史 建築設計製図Ⅳ 平和・都市建築論</p>			
(B)	<p>人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。(バ)</p> <p>特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。(総)</p> <p>スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。(健2)</p>	<p>パッケージ(◎) → 健康スポーツ(◎)</p>	<p>パッケージ(◎)</p>	<p>総合科目(◎) 建築計画Ⅰ</p>	<p>建築設計製図Ⅱ(◎) 日本建築史 都市計画 建築計画Ⅱ 環境論</p>	<p>建築設計製図Ⅲ(◎) 西洋建築史</p>	<p>建築設計製図Ⅳ 近代建築史 平和・都市建築論</p>	<p>環境デザイン論</p>	





◎：各課程に共通した必修科目，○：各課程ごとに必修の指定が異なりいずれかを必ず履修すべきである科目

*：(E) 専門基礎科目，専門科目については別紙に詳細を記載している。

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目名	単位数	必須、選択の別	学期	講義、演習、実験、研究等の別	授業時間	学習・教育目標との対応と関与の程度φ													
									A	B	C	D	E1	E2	F	G1	G2	H	I			
専門基礎科目	必修	21	応用数学I	2	必修	1・II	講義	22.5				1.0										
			技術英語演習	1	必修	2・II	演習	22.5							1.0							
			建築設計製図I	2	必修	2・I	演習	67.5	0.2				0.6						0.1	0.1		
			建築設計製図II	2	必修	2・II	演習	67.5		0.2			0.6						0.1	0.1		
			建築構造力学I	4	必修	2・I	講義	45.0				0.2	0.8									
			建築構造力学II	4	必修	2・II	講義	45.0				0.2	0.8									
			建築計画I	2	必修	2・I	講義	22.5		0.1			0.7		0.1				0.1			
			建築材料	2	必修	2・II	講義	22.5					1.0									
			建築行政	2	必修	3・I	講義	22.5			0.4		0.6									
			応用数学II	2	選択必修	2・I	講義	22.5				1.0										
	応用数学III	2	選択必修	2・I	講義	22.5				1.0												
	応用数理A	2	選択必修	3・I	講義	22.5				1.0												
	確率・統計	2	選択必修	2・I	講義	22.5				1.0												
	応用数学総合	2	選択必修	2・II	講義	22.5				1.0												
	建築物振動論	2	選択必修	3・II	講義	22.5				0.2	0.8											
	地盤・建築基礎構造	2	選択必修	3・II	講義	22.5				0.2	0.8											
	建築学外実習	1	選択必修	3・II	実習	33.8					0.7					0.1	0.1	0.1				
	建築コンピュータ工学	2	選択必修	2・II	講義	22.5				1.0												
	環境論	2	選択必修	2・II/3・II	講義	22.5		0.3			0.7											
	A	(4)	鉄筋コンクリート構造I	2	選択必修	2・II	講義	22.5				1.0										
			鉄筋コンクリート構造II	2	選択必修	3・I	講義	22.5				1.0										
		鋼構造設計基礎	2	選択必修	2・II	講義	22.5				0.8						0.1	0.1				
		建築一般構造	2	選択必修	2・I	講義	22.5				1.0											
		B	(3)	建築環境学I	2	選択必修	2・I	講義	22.5			1.0										
				建築環境学II	2	選択必修	2・II	講義	22.5				1.0									
				建築環境学演習	1	選択必修	3・I	演習	22.5				0.7						0.1	0.2		
		C	(6)	日本建築史	2	選択必修	2・II	講義	22.5	0.4		0.6										
				都市計画	2	選択必修	2・II	講義	22.5	0.2		0.7		0.1								
				西洋建築史	2	選択必修	3・I	講義	22.5	0.2		0.8										
	D	(1)	建築材料実験	1	選択必修	3・I	実験	33.8			0.6		0.4					0.1	0.3			
			建築見学演習	1	選択必修	3	演習	22.5		0.1		0.6					0.1	0.1	0.1			
	小計	40	必修21単位、選択必修19単位以上を含めて専門基礎科目で40単位以上。 ただし、選択必修についてはA群より4単位以上、B群より3単位以上、C群より6単位以上、D群より1単位以上。																			
	専門科目	必修	10	建築設計製図III	3	必修	3・I	演習	101.3	0.1	0.1			0.4	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1		
				建築設計製図IV	3	必修	3・II	演習	101.3	0.1	0.1			0.4	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1		
				建築倫理	2	必修	3・II	講義	22.5			0.9		0.1								
				建築設備I	2	必修	3・I	講義	22.5					1.0								
		選択必修	4	耐震構造	2	選択必修	3・II	講義	22.5					1.0								
				建築構造設計	2	選択必修	4・I	講義	33.8				0.6	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1			
				建築防災	2	選択必修	4・I	講義	22.5					1.0								
				鋼構造設計法	2	選択必修	3・I	講義	22.5					1.0								
近代建築史				2	選択必修	3・II	講義	22.5	0.2	0.2			0.6									
建築計画II				2	選択必修	2・II	講義	22.5		0.1			0.7	0.1			0.1					
E	(2)	建築施工	2	選択必修	3・I	講義	22.5		0.2		0.8											
		建築生産マネジメント	2	選択必修	3・II	講義	22.5					1.0										
自由選択		構造解析法	2	自由選択	3・II	講義	22.5				1.0											
		塑性力学	2	自由選択	4・I	講義	22.5				1.0											
		建築ゼミナールI	2	自由選択	3・I	その他	22.5				0.6			0.2	0.2							
		建築ゼミナールII	2	自由選択	3・II	その他	22.5				0.6			0.2	0.2							
		建築設備II	2	自由選択	3・II	講義	22.5					1.0										
		建築設計製図V	2	自由選択	4・I	演習	67.5				0.4	0.2		0.1	0.1	0.2						
		芸術制作	2	自由選択	4・I	演習	67.5				0.6	0.3		0.1								
		建築ゼミナールIII	1	自由選択	4・I	その他	11.3				0.5	0.1		0.1	0.1	0.2						
		都市環境論	2	自由選択	3・I	講義	22.5				1.0											
		平和都市・建築論	2	自由選択	3・II	講義	22.5	0.3	0.1		0.6											
環境デザイン論	2	自由選択	4・I	講義	22.5		0.2	0.2		0.4	0.2											
卒業論文	5	卒業論文	5	必修	4	その他				0.1	0.4	0.1		0.2	0.1	0.1						
小計	25	卒業論文を含む必修15単位、選択必修4単位以上を含めて専門科目で25単位以上。 ただし、選択必修についてはE群より2単位以上。																				
専門科目合計	75	専門基礎科目40単位以上、専門科目25単位以上を含めて専門科目75単位以上。																				
総計(卒業要件)	124																					

到達目標評価項目と評価基準の表

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セマスタ
(A) 平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の世界や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することができる) に関する理解	(A) 平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の世界や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することができる) に関する理解し、説明することができる。	(A) 平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の世界や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することができる) に関する理解している。	(A) 平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の世界や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することができる) に関する概要を理解している。	建築設計製図Ⅰ(3) 建築設計製図Ⅲ(5) 建築設計製図Ⅳ(6) ヒロシマ学(2) 戦争と平和に関する総合的考察(2)
(B) 人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することができる。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) に関する理解	(B) 人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することができる。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) に関する理解し、説明することができる。	(B) 人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することができる。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) に関する理解している。	(B) 人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することができる。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) に関する概要を理解している。	教養的教育総合科目(3,4) パッケージ別科目(1,2) 建築設計製図Ⅱ(4) 建築設計製図Ⅲ(5)
(C) 技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することができる。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。)	(C) 技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することができる。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。)	(C) 技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することができる。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。)	(C) 技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することができる。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。)	建築倫理(6)

<p>・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。)に関する理解</p>	<p>・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。)について理解し、説明することができる。</p>	<p>・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。)について理解している。</p>	<p>・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。)について概要を理解している。</p>	
<p>(D) 工学的基礎知識の習得 (・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を建築に応用することが出来る)に関する理解</p>	<p>(D) 工学的基礎知識の習得 (・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を建築に応用することが出来る)について理解し、説明することができる。</p>	<p>(D) 工学的基礎知識の習得 (・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を建築に応用することが出来る)について理解している。</p>	<p>(D) 工学的基礎知識の習得 (・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学, 物理学, 情報技術の基礎的内容を建築に応用することが出来る)について概要を理解している。</p>	<p>教養的教育数学(1,2) 物理関係科目(1,2) 応用数学 I (2) 建築コンピュータ工学 (4) 建築構造力学 I (3) 建築構造力学 II (4) 建築物振動論(5) 建築環境学 I (3) 建築環境学 II (4) 卒業論文(7,8)</p>
<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力)に関する理解</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力)について理解し、説明することができる。</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力)について理解している。</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力)について概要を理解している。</p>	<p>建築設計製図 I (3) 建築設計製図 II (4) 建築意匠(3) 日本建築史(4) 西洋建築史(5) 都市計画(4) 建築設計製図 III (5) 建築設計製図 IV (6)</p>
<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力)に関する理解</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力)について理解し、説明することができる。</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力)について理解している。</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力)について概要を理解している。</p>	<p>建築環境学 I (3) 建築環境学 II (4) 建築環境学演習(5)</p>
<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力)に関する理解</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力)について理解し、説明することができる。</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力)について理解している。</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力)について概要を理解している。</p>	<p>建築一般構造(3) 建築設計製図 III (5) 建築設計製図 IV (6) 建築構造設計(7) 建築一般構造(3) 建築構造力学 I (3) 建築構造力学 II (4) 建築見学演習(5,6) 建築材料(4) 建築学外実習(6)</p>
<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((2)建築に関する総合</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((2)建築に関する総合</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((2)建築に関する総合</p>	<p>(E) 建築専門知識・能力の育成 ((2)建築に関する総合</p>	<p>卒業論文(7,8)</p>

<p>的でより発展的な知識能力(・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ) ロ) ハ) のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることが出来る。)</p> <p>に関する理解</p>	<p>的でより発展的な知識能力(・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ) ロ) ハ) のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることが出来る。)</p> <p>について理解し、説明することができる。</p>	<p>的でより発展的な知識能力(・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ) ロ) ハ) のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることが出来る。)</p> <p>について理解している。</p>	<p>的でより発展的な知識能力(・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ) ロ) ハ) のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることが出来る。)</p> <p>について概要を理解している。</p>	
<p>(F) デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することが出来る。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)</p> <p>に関する理解</p>	<p>(F) デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することが出来る。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)</p> <p>について理解し、説明することができる。</p>	<p>(F) デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することが出来る。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)</p> <p>について理解している。</p>	<p>(F) デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することが出来る。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)</p> <p>について概要を理解している。</p>	<p>教養ゼミ(1) 建築設計製図Ⅲ(5) 建築設計製図Ⅳ(6) 建築構造設計(7) 都市計画(4) 建築計画Ⅰ(3) 建築計画Ⅱ(4) 卒業論文(7,8)</p>
<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読み書きしたりすることができる。)</p> <p>に関する理解</p>	<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読み書きしたりすることができる。)</p> <p>について理解し、説明することができる。</p>	<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読み書きしたりすることができる。)</p> <p>について理解している。</p>	<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読み書きしたりすることができる。)</p> <p>について概要を理解している。</p>	<p>コミュニケーションⅠA(1) コミュニケーションⅠB(1) コミュニケーションⅡA(2) コミュニケーションⅡB(4) コミュニケーションⅢ(3,4) 技術英語演習(4)</p>
<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G2) 日本語コミュニケーション能力 ・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することが出来る。 ・説得力のある発表用資料(配布資料, PPT, OHP)を作成することが出来る。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文</p>	<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G2) 日本語コミュニケーション能力 ・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することが出来る。 ・説得力のある発表用資料(配布資料, PPT, OHP)を作成することが出来る。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文</p>	<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G2) 日本語コミュニケーション能力・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することが出来る。 ・説得力のある発表用資料(配布資料, PPT, OHP)を作成することが出来る。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文</p>	<p>(G) コミュニケーション能力の育成 ((G2) 日本語コミュニケーション能力・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することが出来る。 ・説得力のある発表用資料(配布資料, PPT, OHP)を作成することが出来る。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文</p>	<p>教養ゼミ(1) 建築設計製図Ⅲ(5) 建築設計製図Ⅳ(6) 建築構造設計(7) 卒業論文(7,8)</p>

<p>章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くことが出来る。)に関する理解</p>	<p>章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くことが出来る。)について理解し、説明することができる。</p>	<p>章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くことが出来る。)について理解している。</p>	<p>章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くことが出来る。)について概要を理解している。</p>	
<p>(H) 自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)に関する理解</p>	<p>(H) 自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)について理解し、説明することができる。</p>	<p>(H) 自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)について理解している。</p>	<p>(H) 自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)について概要を理解している。</p>	<p>教養ゼミ(1) 建築設計製図Ⅰ(3) 建築設計製図Ⅱ(4) 建築設計製図Ⅲ(5) 建築設計製図Ⅳ(6) 建築構造設計(7) 建築環境学演習(5) 鋼構造設計基礎(4)</p>
<p>(I) 計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果をとりまとめることが出来る。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)に関する理解</p>	<p>(I) 計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果をとりまとめることが出来る。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)について理解し、説明することができる。</p>	<p>(I) 計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果をとりまとめることが出来る。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)について理解している。</p>	<p>(I) 計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果をとりまとめることが出来る。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)について概要を理解している。</p>	<p>建築設計製図Ⅰ(3) 建築設計製図Ⅱ(4) 建築設計製図Ⅲ(5) 建築設計製図Ⅳ(6) 建築構造設計(7) 建築環境学演習(5) 鋼構造設計基礎(4) 卒業論文(7,8)</p>

担当教員リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
大崎 純	担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，1単位） 空間の創造（学部1年，Ⅱ期，2単位） 建築一般構造（学部2年，Ⅲ期，2単位） 建築構造力学Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，4単位） 建築構造力学Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，4単位） 建築物振動論（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築設計製図Ⅳ（学部3年，Ⅵ期，9単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位） 研究室の場所：A-2棟822室 E-mailアドレス： ohsaki@hiroshima-u.ac.jp	
大久保孝昭	担当授業科目：空間の創造（学部1年，Ⅱ期，2単位） 建築一般構造（学部2年，Ⅲ期，2単位） 建築材料（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築材料実験（学部3年，Ⅴ期，1単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築施工（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築生産マネジメント（学部4年，Ⅶ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位） 研究室の場所：A-2棟825室 E-mailアドレス： ohkubotk@hiroshima-u.ac.jp	
山本 春行	担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 地盤・建築基礎構造（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位） 研究室の場所：国際協力研究科棟411室 E-mailアドレス： a040564@hiroshima-u.ac.jp	

<p>田川 浩</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築材料（学部2年，Ⅳ期，2単位） 鋼構造設計基礎（学部2年，Ⅳ期，2単位） 鋼構造設計法（学部3年，Ⅴ期，2単位） 耐震構造（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築構造設計（学部4年，Ⅶ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟824室</p> <p>E-mail アドレス：htagawa@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>杉本 俊多</p>	<p>担当授業科目：空間の創造（学部1年，Ⅱ期，2単位） 西洋建築史（学部3年，Ⅴ期，2単位） 近代建築史（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築設計製図Ⅲ（学部3年，Ⅴ期，3単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 平和都市・建築論（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築設計製図Ⅳ（学部3年，Ⅵ期，3単位） 建築設計製図Ⅴ（学部4年，Ⅶ期，1単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟721室</p> <p>E-mail アドレス：tsugi@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>平野 吉信</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 空間の創造（学部1年，Ⅱ期，2単位） 都市計画（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築計画Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，2単位） 建築計画Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築行政（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築設計製図Ⅲ（学部3年，Ⅴ期，9単位） 建築設計製図Ⅳ（学部3年，Ⅵ期，9単位） 建築設計製図Ⅴ（学部4年，Ⅶ期，1単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 平和都市・建築論（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築生産マネジメント（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟644室</p> <p>E-mail アドレス：yosy-hirano@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>主任</p>

<p>西名 大作</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 空間の創造（学部1年，Ⅱ期，2単位） 建築環境学Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，2単位） 建築環境学Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築環境学演習（学部3年，Ⅴ期，1単位） 都市環境論（学部3年，Ⅲ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築設計製図Ⅳ（学部3年，Ⅵ期，9単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2 棟 624 室</p> <p>E-mail アドレス：nishina@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>近藤 一夫</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，1単位） 建築構造力学Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，4単位） 建築構造力学Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，4単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 構造解析法（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 塑性力学（学部4年，Ⅶ期，2単位） 卒業論文（学部4年，Ⅶ，Ⅷ期，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2 棟 826 室</p> <p>E-mail アドレス：g057532@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>日比野 陽</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 鉄筋コンクリート構造Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，2単位） 技術英語演習（学部2年，Ⅳ期，1単位） 鉄筋コンクリート構造Ⅱ（学部3年，Ⅳ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅳ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅴ期，2単位） 耐震構造（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築構造設計（学部4年，Ⅶ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2 棟 821 室</p> <p>E-mail アドレス：hibino@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>三浦 弘之</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築物振動論（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築防災（学部4年，Ⅶ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2 棟 823 室</p> <p>E-mail アドレス：hmiura@hiroshima-u.ac.jp</p>	

<p>岡河 貢</p>	<p>担当授業科目：建築計画Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，2単位） 建築計画Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築設計製図Ⅲ（学部3年，Ⅴ期，3単位） 建築設計製図Ⅳ（学部3年，Ⅵ期，3単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 平和都市・建築論（学部3年，Ⅵ期，2単位） サステイナブルデザイン（学部3年，Ⅵ期，1単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築設計製図Ⅴ（学部4年，Ⅶ期，1単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2 棟 643 室</p> <p>E-mail アドレス：okagawa@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>千代章一郎</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築意匠（学部2年，Ⅲ期，2単位） 日本建築史（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築設計製図Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，2単位） 建築設計製図Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築コンピュータ工学（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 平和都市・建築論（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 環境デザイン論（学部4年，Ⅶ期，2単位） 建築設計製図Ⅴ（学部4年，Ⅶ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2 棟 722 室</p> <p>E-mail アドレス：sendai@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>田中 貴宏</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 都市計画（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築設備Ⅰ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築設備Ⅱ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 建築環境学演習（学部3年，Ⅴ期，1単位） 建築設計製図Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，3単位） 建築倫理（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2 棟 625 室</p> <p>E-mail アドレス：ttanaka@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>久保田 徹</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 都市計画（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築倫理（学部3年，Ⅳ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：国際協力研究科 412 室</p> <p>E-mail アドレス：tetsu@hiroshima-u.ac.jp</p>	

<p>(選考中)</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築コンピュータ工学（学部2年，Ⅳ期，2単位） 技術英語演習（学部2年，Ⅳ期，1単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟816室</p> <p>E-mail アドレス：未定</p>	
<p>渡邊 秀和</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築構造力学Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，4単位） 建築構造力学Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，4単位） 建築材料実験（学部3年，Ⅴ期，1単位） 建築コンピュータ工学（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟815室</p> <p>E-mail アドレス：hidekazu-watanabe@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>山西 央朗</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 鋼構造設計基礎（学部2年，Ⅳ期，2単位） 鋼構造設計法（学部3年，Ⅴ期，2単位） 技術英語演習（学部2年，Ⅳ期，1単位） 建築材料実験（学部3年，Ⅴ期，1単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟812室</p> <p>E-mail アドレス：未定</p>	
<p>金田一 清香</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 技術英語演習（学部2年，Ⅳ期，1単位） 建築環境学演習（学部3年，Ⅴ期，1単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟612室</p> <p>E-mail アドレス：kindaichi@hiroshima-u.ac.jp</p>	

<p>水田 丞</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築設計製図Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，3単位） 建築設計製図Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，3単位） 技術英語演習（学部2年，Ⅳ期，1単位） 建築コンピュータ工学（学部2年，Ⅳ期，2単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟712室</p> <p>E-mail アドレス：smizuta@hiroshima-u.ac.jp</p>	
<p>石垣 文</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ（学部1年，Ⅰ期，2単位） 建築設計製図Ⅰ（学部2年，Ⅲ期，3単位） 建築設計製図Ⅱ（学部2年，Ⅳ期，3単位） 技術英語演習（学部2年，Ⅳ期，1単位） 建築設計製図Ⅲ（学部3年，Ⅴ期，3単位） 建築設計製図Ⅳ（学部3年，Ⅵ期，3単位） 建築ゼミナールⅠ（学部3年，Ⅴ期，2単位） 建築ゼミナールⅡ（学部3年，Ⅵ期，2単位） 卒業論文（学部4年，5単位）</p> <p>研究室の場所：A-2棟633室</p> <p>E-mail アドレス：isgkay@hiroshima-u.ac.jp</p>	

【応用数学グループ】

担 当 教 員 リ ス ト

担当教員名	担 当 授 業 科 目 等	備 考
三上 敏夫	担当授業科目：応用数学 I、数学演習 I 研究室の場所：A3-722 E-mail アドレス：mikami@amath.hiroshima-u.ac.jp	主任
柴田 徹太郎	担当授業科目：応用数学 I、応用数理 A、 数学演習 II 研究室の場所：A3-824 E-mail アドレス：shibata@amath.hiroshima-u.ac.jp	
久保 富士男	担当授業科目：応用数学 II、応用数学 IV 研究室の場所：A3-726 E-mail アドレス：remakubo@amath.hiroshima-u.ac.jp	
伊藤 雅明	担当授業科目：応用数学 II、応用数理 C 研究室の場所：A3-843 E-mail アドレス：ito@amath.hiroshima-u.ac.jp	
税所 康正	担当授業科目：応用数学 III、確率・統計 研究室の場所：A3-724 E-mail アドレス：saisho@amath.hiroshima-u.ac.jp	
眞崎 聡	担当授業科目：応用数学 III、数学演習 I、 数学演習 II 研究室の場所：A3-826 E-mail アドレス：masaki@amath.hiroshima-u.ac.jp	
鄭 容武	担当授業科目：応用数学 I、応用数学 II、 応用数学総合 研究室の場所：A3-728 E-mail アドレス：chung@amath.hiroshima-u.ac.jp	
内山 聡生	担当授業科目：応用数学総合、数学演習 I 数学演習 II 研究室の場所：A3-825 E-mail アドレス：uchiyama@amath.hiroshima-u.ac.jp	

※ 主任の方には、備考欄へ「主任」と記載願います。